

## 大学院・名医に学ぶセミナー/TRセミナー

# 現在のがん免疫療法が抱える課題と 今後の展開

講師：西川 博嘉 教授

(国立がん研究センター研究所 腫瘍免疫学担当／  
先端医療開発センター 免疫TR分野、  
名古屋大学 大学院医学系研究科 分子細胞免疫学)

日時：2016年7月1日(金) 18:00~19:00  
(開始時刻が18時からに変更になりました。)

場所：医学教育図書棟4階 第4講義室

### <要旨>

1世紀程前にW. Coleyが免疫応答により悪性腫瘍が退縮することを見いだしてから、がん免疫研究はup and downを繰り返しながら発展を遂げてきた。その研究成果の一つである免疫チェックポイント阻害剤の臨床導入により、がん免疫分野は新たな局面を迎えている。

がん細胞は、遺伝子変異の蓄積により発生することから、本来生体が持っていない非自己の物質(抗原)を有しており、免疫系の標的となる。事実、免疫チェックポイント阻害剤の臨床効果の検討から、がん細胞が遺伝子変異に伴って生じる新たな抗原(Neoがん抗原)を多数有していると臨床効果が良いことが報告されている。しかし、がん細胞は様々な免疫抑制ネットワークを構築することで免疫監視を逃れ、臨床的「がん」となっているため、遺伝子変異の多寡のみでは必ずしも臨床効果と一致せず、厳密なレスポンス・ノンレスポンスを識別するバイオマーカーの同定が求められている。

悪性黒色腫、非小細胞肺癌に続いて、様々ながん種で免疫チェックポイント阻害剤の臨床導入が期待されているが、バイオマーカー同定、ノンレスポンスへの新規がん免疫療法開発は喫近の課題であり、このような点を議論したい。

関連論文：1. Saito, T., Nishikawa H. et al. **Nature Med.** 22: 679, 2016.,  
2. Maeda, Y., Nishikawa, H. et al. **Science** 346: 1536, 2014.

【連絡先】：免疫識別学分野 西村泰治 内線:5310(教授室)、内線 5313(受付)